

教育の状況

2-1 世帯員の学歴構成（対象地域の経年比較）

表 2-1 は、今回の実態把握における在学中の者を除く世帯員（15 歳以上）の学歴構成を、生活実態調査における世帯員（15 歳以上）の学歴構成と併せて示したものである。

表 2-1 世帯員の学歴構成（対象地域の経年変化）

		総数	小学校・ 中学校	高校・ 旧制中学	短大・ 高専	大学・ 大学院	未就学	不明
H 12 調 査	男女計	7,384 (100.0%)	3,659 49.6%	2,383 32.3%	579 7.8%	296 4.0%	355 4.8%	112 1.5%
	男性	3,467 (100.0%)	1,712 49.4%	1,170 33.7%	207 6.0%	217 6.3%	106 3.1%	55 1.6%
	女性	3,917 (100.0%)	1,947 49.7%	1,213 31.0%	372 9.5%	79 2.0%	249 6.4%	57 1.5%
H 22 調 査	男女計	50,453 (100.0%)	17,419 34.5%	21,436 42.5%	4,545 9.0%	4,561 9.0%	342 0.7%	2,150 4.3%
	男性	24,000 (100.0%)	7,696 32.1%	10,467 43.6%	1,325 5.5%	3,193 13.3%	94 0.4%	1,225 5.1%
	女性	26,453 (100.0%)	9,723 36.8%	10,969 41.5%	3,220 12.2%	1,368 5.2%	248 0.9%	925 3.5%

○初等教育修了者等の状況

最終学歴が「小学校・中学校」である者の割合は、34.5%とH12年調査49.6%と比べて15ポイント程度低下している（男性：-17ポイント程度、女性：-13ポイント程度）。

また、「未就学」割合も0.7%と、H12年調査4.8%と比べて4ポイント程度低下している（男性：-3ポイント程度、女性：-6ポイント程度）。

○高等教育修了者の状況

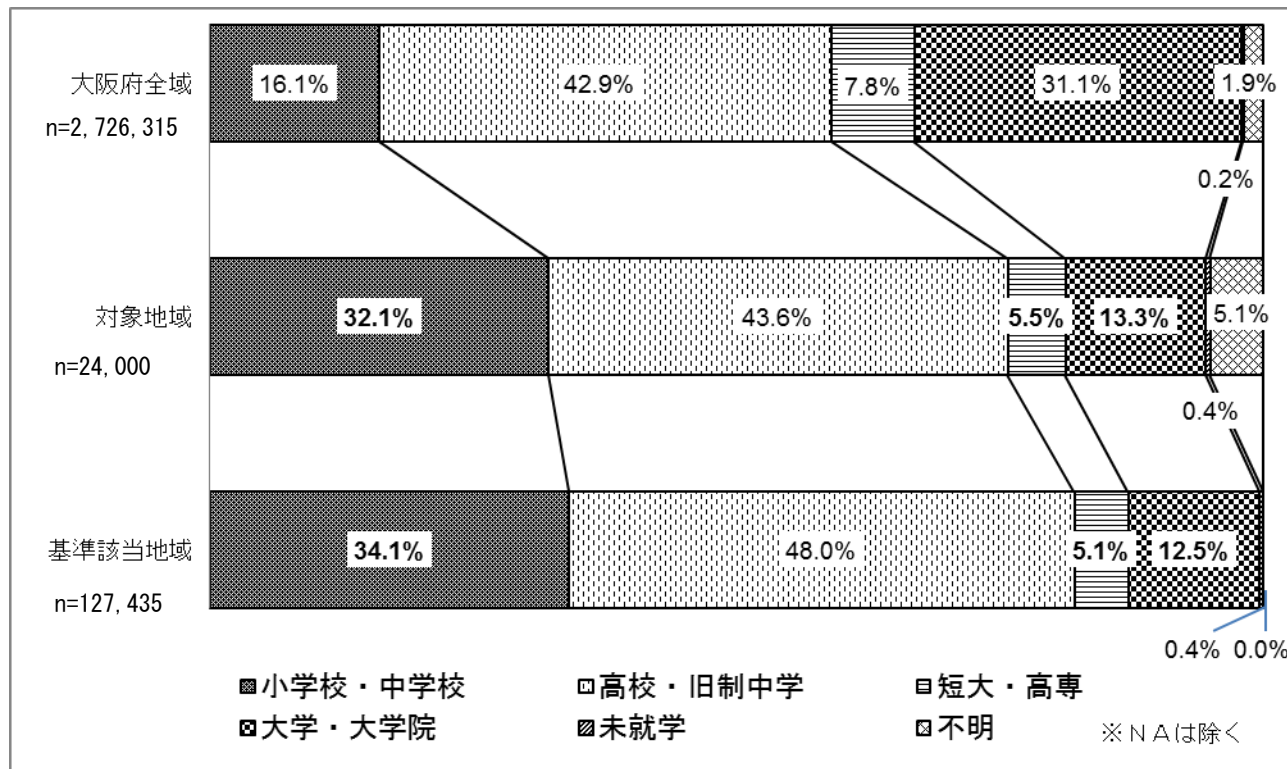
一方で、最終学歴が「短大・高専」である者の割合は、9.0%と、H12年調査7.8%と比べて1ポイント程度上昇している（男性：-1ポイント程度、女性：+3ポイント程度）。

「大学・大学院」割合も9.0%と、H12年調査4.0%と比べて5ポイント上昇しており、男女別では、男性+7ポイント、女性+3ポイント程度と、とりわけ男性の高学歴化が進行している。

2-1 世帯員の学歴構成（男性）

図 2-1-1 は、今回の実態把握における在学中の者を除く世帯員（15 歳以上・男性）の学歴構成について、大阪府全域、対象地域、基準該当地域の結果を示したものである。

図 2-1-1 世帯員（15 歳以上・男性）の学歴構成比



1. 対象地域と大阪府全域との比較

- ・最終学歴が「小学校・中学校卒」の割合は、対象地域 32.1%と、大阪府全域 16.1%の約 2 倍の高さとなっている。
- ・最終学歴が「短大・高専卒」の割合は 5.5%と、大阪府全域 7.8%と比べて 2 ポイント程度低く、「大学・大学院卒」割合は 13.3%と、大阪府全域 31.1%の 2 分の 1 以下、18 ポイント程度低くなっている。

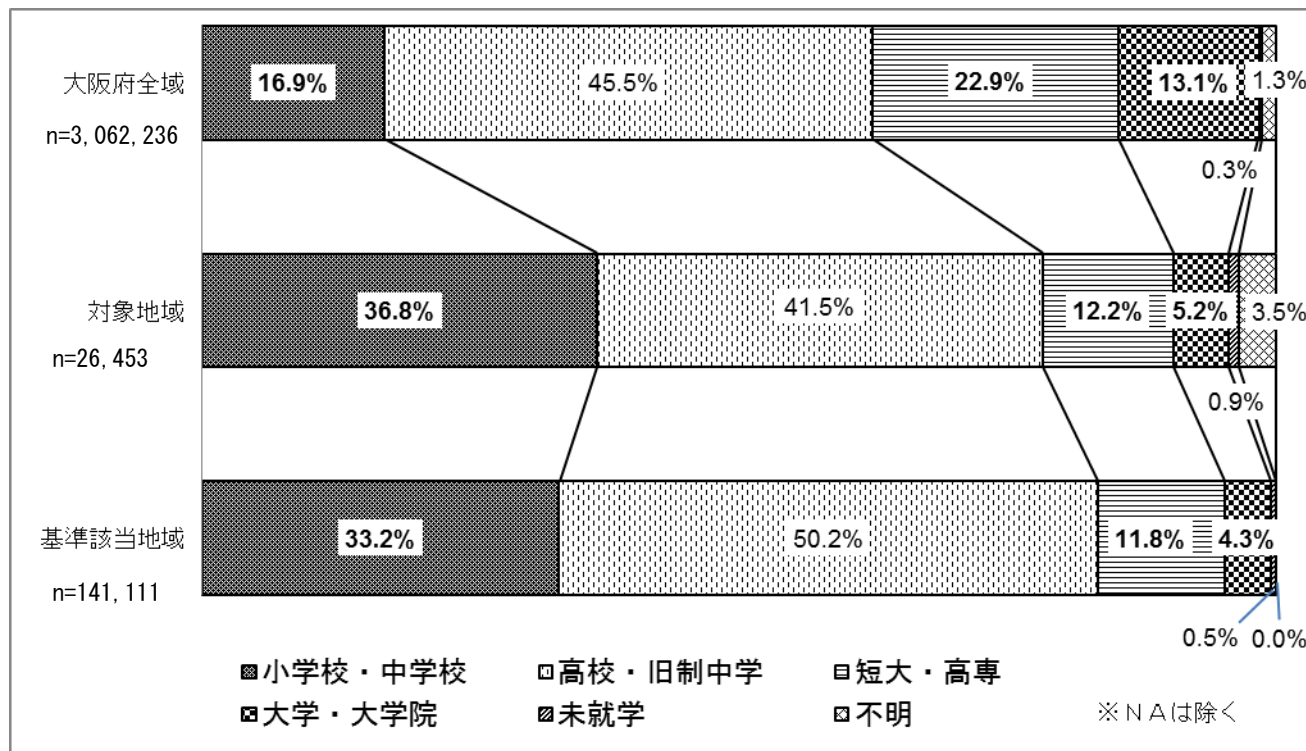
2. 基準該当地域の状況

- ・最終学歴が「小学校・中学校卒」は 34.1%、「短大・高専卒」及び「大学・大学院卒」は、それぞれ 5.1%及び 12.5%となっている。

2-1 世帯員の学歴構成（女性）

図 2-1-2 は、今回の実態把握における在学中の者を除く世帯員（15 歳以上・女性）の学歴構成について、大阪府全域、対象地域、基準該当地域の結果を示したものである。

図 2-1-2 世帯員（15 歳以上・女性）の学歴構成比



1. 対象地域と大阪府全域との比較

- ・最終学歴が「小学校・中学校卒」の割合は 36.8%と、大阪府全域 16.9%と比べて 2 倍以上、20 ポイント程度高くなっている。
- ・最終学歴が「短大・高専卒」の割合は 12.2%と、大阪府全域 22.9%と比べて 10 ポイント程度低く、2 分の 1 程度である。「大学・大学院卒」の割合は 5.2%と、大阪府全域 13.1%と比べて 8 ポイント程度低く、2 分の 1 以下の割合である。

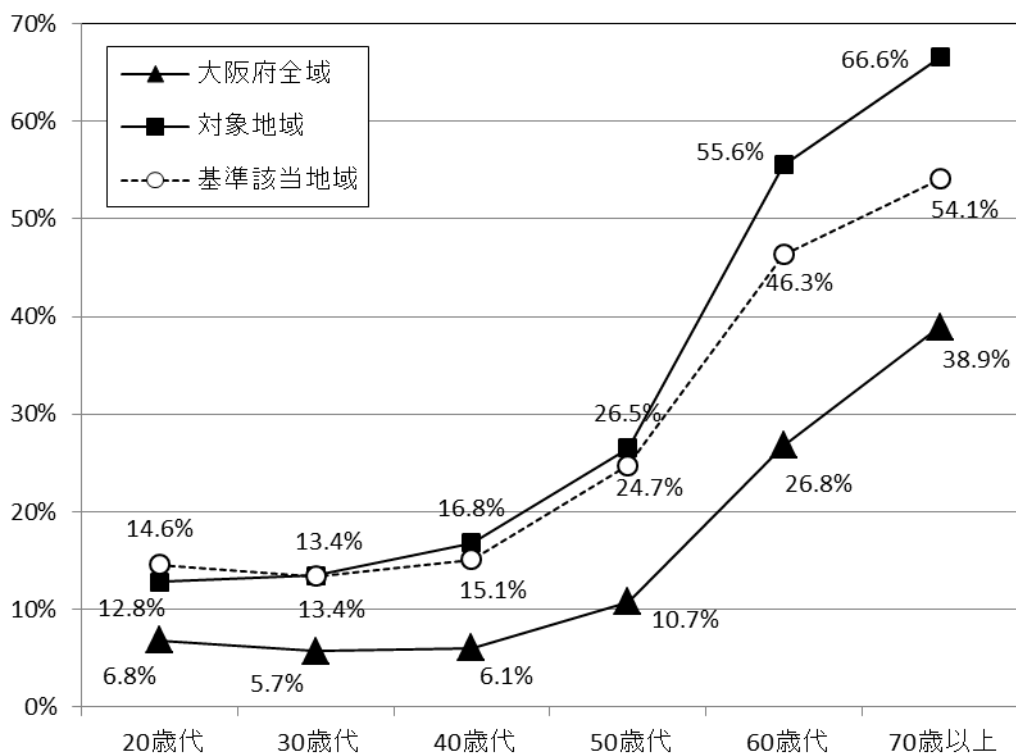
2. 基準該当地域の状況

- ・最終学歴が「小学校・中学校卒」の構成比は 33.2%、短大・高専卒及び大学・大学院卒の構成比は、それぞれ 11.8%及び 4.3%となっている。

2-1 世帯員の学歴構成（年齢階層別）

図 2-1-3 は、今回の実態把握における在学中の者を除く世帯員（15 歳以上）の最終学歴が「中学卒以下」（未就学、小学校・中学校卒）である割合を年齢階層別に表したものである。

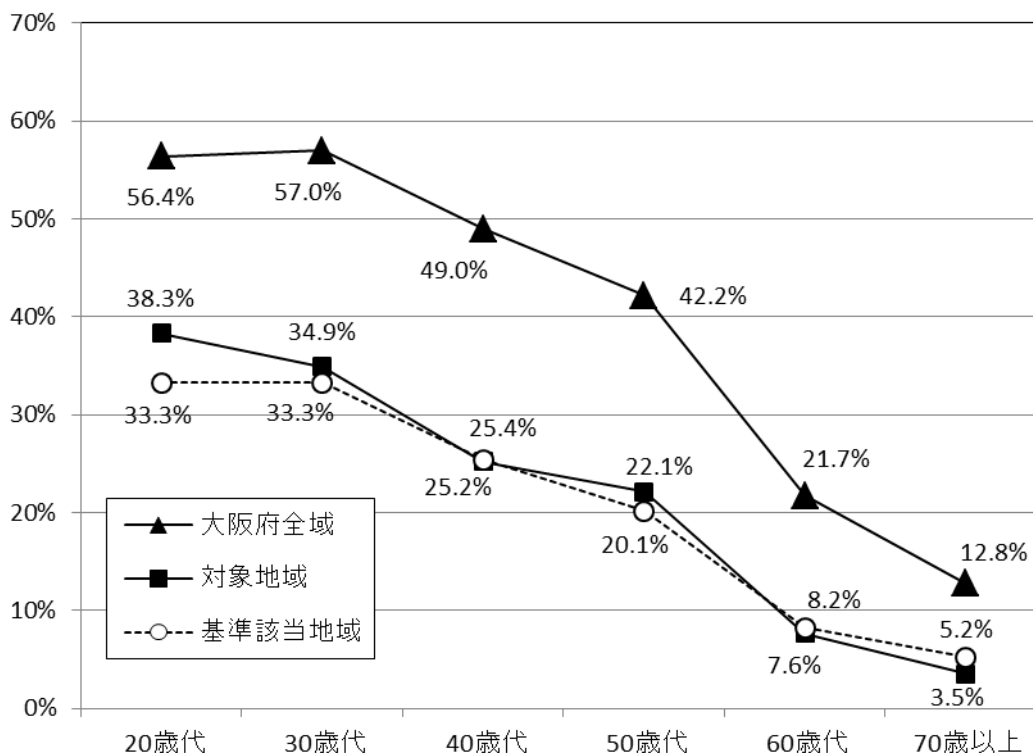
図 2-1-3 最終学歴「中学卒以下」（年齢階層別）割合



- ・ 対象地域における最終学歴が「中学卒以下」の割合は、70 歳以上 66.6%、60 歳代 55.6%、50 歳代 26.5%、40 歳代 16.8%、30 歳代 13.4%、20 歳代 12.8%と、若い年齢階層ほどその割合が低くなっている。
- ・ 大阪府全域と比べると、60 歳代以上の年齢階層では 30 ポイント近くその割合が高くなっているが、若い年齢階層ではその差は縮まっている。しかし、20・30 歳代でも 6~8 ポイント程度、2 倍以上高い傾向が見られる。

図 2-1-4 は、今回の実態把握における在学中の者を除く世帯員（15 歳以上）の最終学歴が「高等教育修了者」（短大・高専卒、大学・大学院卒）である割合を年齢階層別に表したものである。

図 2-1-4 最終学歴「高等教育修了者」（年齢階層別）割合



- ・ 対象地域における最終学歴が「高等教育修了者」の割合は、70 歳以上 3.5%、60 歳代 7.6%、50 歳代 22.1%、40 歳代 25.2%、30 歳代 34.9%、20 歳代 38.3%となっており、若い世代ほどその割合が高い傾向が見られる。
- ・ しかし、いずれの年齢階層でも大阪府全域の割合を下回っており、30～50 歳代では 20～24 ポイント程度低くなっている。20 歳代では 18 ポイント程度とやや大阪府全域との差が縮小している。

